

東日本大震災への対応と復興支援活動

東日本大震災の教訓をさらなる安全・安心につなげるために

サントリーグループは、東日本大震災の教訓をもとに、大規模災害などへのリスクマネジメント体制を一層強化しています。また、皆様の生活を支える飲料メーカーとして、災害発生後も安全・安心な商品を安定的に供給できる体制づくりにお取引先と連携して取り組んでいます。

大規模自然災害への備え

サントリーグループでは、従来より大規模地震や集中豪雨による洪水などに備えて、社員が所有する携帯電話などを使った安否確認システムを導入しています。また、大規模地震を想定した防災訓練や徒歩による帰宅訓練なども定期的を実施しています。



徒歩による帰宅訓練

大規模自然災害の発生時は、サントリーホールディングス(株)総務部を中心とする「対策本部」を設置し、傘下に各部門別の「対策チーム」を配置して迅速に初動対応を行います。対策本部では、従業員・家族の安否確認や被害情報の収集・整理をはじめ、「事業所機能復旧」「救援物資等手配」「得意先・地域社会支援」などを統括します。

2011年は東日本大震災の対応を踏まえ、対応マニュアルや衛星電話などの通信訓練方法の見直し、災害備蓄品の増強、グループ会社を含めた災害発生時の体制強化などを図りました。

また、こうした災害発生時にも事業をできる限り中断せず、お客様に高品質な商品・サービスを安定的に供給するために事業継続計画(BCP)を策定し、供給責任を果たす対策を実施しています。今後はサントリーグループ内の工場における生産活動だけでなく、原材料調達や物流、営業活動での事業継続計画を策定するとともに、有事に備えて本部機能の分散なども検討していきます。

サントリーグループの品質保証体制

サントリーグループは、安全な商品・サービスをお届けするため、徹底した品質保証に取り組んでいます。さらにお客様にご安心いただくため、放射性物質についても検査・保証体制を構築しています。

製品・水・原料の安全性

製品の安全性は、製造に使用する水と原料の安全性を保証することで確保しています。水と原料については、国や自治体、原料メーカーなどから情報を入手するとともに、自社または外部委託機関で放射性物質分析を行い安全性を確認しています。その上で、お客様にお届けする最終製品についても、定期的に全国の工場の製品検査を実施しています。

放射性物質の分析方法と今後の対応

自社の分析機関である安全性科学センターに、いち早く放射性物質の精密な個別分析が可能なゲルマニウム半導体検出器を導入し、2011年4月中旬には自社で検査できる体制を整えてきました。その後も分析機器を増設して体制強化を図り、2012年4月に施行された食品中の放射性物質の規制を厳格化した新基準値にも対応しています。

今後も引き続きお客様にご安心いただける製品をお届けできるよう、行政の指導に従うと同時に自主的な分析も継続し、安全性の確保を図ります。



放射性セシウムを精密に測定することが可能なゲルマニウム半導体検出器

被災地の一日も早い復興を願って

サントリーグループは、震災発生直後の2011年3月に緊急支援として、「サントリー天然水(南アルプス)」550ml ペットボトル100万本と岩手県・宮城県・福島県に合計3億円の義捐金を贈呈しました。4月には、被災地の一日も早い復興を願い、40億円の追加拠出を決め、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「文化・芸術・スポーツを通じた支援」に役立てています。2012年も引き続き支援が必要と考え、漁船の取得に対して、さらに20億円の拠出を決めました。今後も、合計63億円の義捐金を有効に活用し、被災地のニーズを踏まえた復興支援に継続して取り組んでいきます。

漁業の復興支援

サントリーグループは、被災地の産業を復興し、被災された方々の自立をサポートするため、基幹産業の1つである漁業の支援に注力しています。具体的には、岩手県・宮城県に各20億円の寄付を実施し、漁業者の負担を軽減するため、漁船取得費用の一部として役立てていただいています。公的な共同利用漁船等復旧支援対策事業を通じて約1万隻の漁船取得が岩手・宮城両県で予定されていますが、サントリーグループの支援はそのすべての漁船に活用されます。

2012年1月には、義捐金を活用した初の19トンクラスの漁船が完成し、宮城県気仙沼漁港で地元の漁業関係者とともに入水式が行われました。



「第五十八大伸丸」(19トン)の入水式

未来を担う子どもたちの支援

被災地の復興には、未来を担う子どもたちの支援が不可欠という認識のもと、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと共同で「サントリー 東北子ども応援プロジェクト」を実施しています。その一環として将来の漁業を担う人材の育成支援を目的に、青森県・岩手県・宮城県・福島県の水産高校および水産学科の被災生徒を対象とする返還義務のない奨学金プログラムを設けています。奨学金は2012年4月からの3年間、7校の生徒約600名に対し、約6億円の給付を予定しています。

もう1つの重要な活動として、子どもたちが安心して学び遊べる機会の提供を行っています。特に、活動が制約されている福島県の子どもたちに対して、夏休みを利用

したサマーキャンプ、窓を開けられない小中学校の窓への遮熱フィルム取り付けなどの支援を行っています。また、岩手県陸前高田市では、仮設住宅・避難所の子どもたちがのびのびと遊べる室内施設「こどもひろば」を開設しました。

また、2012年5月には、「桃・柿育英会」の遺児育英活動を支援するため、2億円の寄付を行いました。



気仙沼海洋高校での奨学金贈呈式 「こどもひろば」で遊ぶ子どもたち

文化・芸術・スポーツを通じた支援

音楽を通じて復興に貢献するため、2012年4月、深いパートナーシップで結ばれたウィーン・フィルハーモニー管弦楽団とともに「ウィーン・フィル&サントリー音楽復興基金」を設立しました。今後、サントリー芸術財団が運営母体となって、被災地でのコンサートや復興支援を目的に活動する音楽団体への助成事業などを10年間展開していきます。

サントリー文化財団では、被災地の文化活動を支援するため、2011年9月に「サントリー地域文化賞」特別賞を2団体に贈呈しました。

また、サントリーバレーボール部「サンバーズ」とラグビー部「サンゴリアス」は、2011年7月に被災地の宮城県仙台市と岩手県奥州市で、小中高校生を対象にスポーツ教室やクリニックを開催。約750名の子どもたちが参加しました。



岩手県奥州市のラグビークリニックには2日間で約500名が参加